南蛮文化と京都

1．文化革命としての南蛮人の渡来

①世界観の変容（三国－中華・日本・天竺史観の崩壊）

②一神教としてのキリスト教（八百万の神々信仰への痛烈な批判、信長の許容、ただし権力の支配のもとで）

③新しい技術体系による文明開化（民衆の衣食住の多様化・豊富化）

2．東アジア交易世界の成立とポルトガル人の参加（１６世紀）

①天文学知識の発達と航海技術・大型構造船－琉球王国の衰退

オリーブ油・工芸品・銀貨・香辛料・薬材／中国の生糸・絹・陶磁器

②種子島への鉄砲伝来（東南アジア製の火縄銃、中国人王直の船に乗船-(1543年)

7年後には鉄砲備えの城郭ができる。製造は雑賀、根来、国友。流通は堺商人と本能寺（秀吉に焔硝を献上、信長との関連。大友宗鱗は欧州の大型後装大砲輸入）

3．メダルの表と裏としてのイエズス会神父の布教とそののち

①サビエルの足跡(1549)鹿児島--島津は拒否。肥前- 松浦は拒否。豊後- 大友は許可

山口- 大内は大道寺創建を許可。（ 西域の僧、天竺より渡来、仏法紹隆- 1551年

京都- 大内義隆のもとへ日本国王宛書簡提出、11日間滞在。

日本人観- 異教徒中、礼節・名誉・善行重視、最優秀の民、国民は貧窮、階級制度厳格、大罪を意に介せず、俗人が坊主より行状よきこと。

②ビレイラ、フロイスらの布教と信長との出会い、--1559年延暦寺に周旋依頼、三好、松永らの黙認下に布教開始。四条新町革棚町の裏長屋、六角室町、四条烏丸等。

1569年信長と会見、1576年南蛮寺建立。1580年安土にセミナリオ、コレジョ開設。

1581年の報告--九州の信徒115,000　豊後10,000　都地方25,000　教会 200

③秀吉の禁教　第１次1587年「日本は神国也。20日以内の宣教師退去要求」

第２次1596年土佐漂着スペイン船の誣告「目的は征服にあり」

1597年26聖人の殉教（京都の信徒）

④慶長の復興　貿易周旋名目でフランシスコ会家康に接近。1602年江戸開教、1603年京都教会再建、伏見住院・病院建築。各地にだいうす町。

1605年には約100 万人の信徒。家康側近にも。おたあジュリアなど。

4．南蛮文化のかずかず

①天文地理　天体図、地球儀、暦学（明経道の学者ら入信）

②医学（外科）（曲直瀬道三、施薬院全宗らが学ぶ）

③印刷と出版　金属活字と印刷機の持ち込みロドリゲス『日本大文典』、『日葡辞書』『いそっぷ物語』『平家物語』『こんてんむつすむんじ』木活字本、伏見で原田アントニーにより印刷。

④衣料　シャムロ染（ラシャ染）カルサン（ズボン）、カッパ、ジョバン、ボタン、ナンバン頭巾、ナンバン傘

⑤食料品　ビスコ、パン、カステラ、テンプラ、コンペイ糖、ワカ（牛肉）、ボーロナンバン酒（ぶどう酒）

⑥雑貨　時計　カルタ、キセル、ラオ、、ビードロ、ガラス製品